

関係者各位

スーパー耐久シリーズ Rd. 5 SUZUKA 戦レース報告



9月28日～29日、スーパー耐久2024 Rd. 5 SUZUKA 5時間レースが開催され、8クラス56台が参加し、TEAM ZEROONEからは25号車26号車の2台が参加した。日産メカニックチャレンジの活動としては、日産愛知自動車大学の学生が6名、日産京都自動車大学の学生が5名、日産販売会社のテクニカルスタッフ(TS)は9名参加し、レースに携わった。

■予選

9/28日(土) コースコンディション：ドライ

今大会もAドライバーとBドライバーの合計タイムで予選順位が決まるタイム合算方式の予選となった。25号車は植松選手、26号車は大塚選手が担当し、Aドライバー予選が始まった。植松選手は、2, 14. 555 を記録。大塚選手は、2, 13. 608 のクラストップタイムを記録。Bドライバー予選では、松田選手が2, 12. 246 を記録し、クラス8番手を獲得。26号車は、富田選手は2, 12. 696 を記録し、5番手からのスタートとなった。

■決勝(5時間レース)

9/29日(日) コースコンディション：ドライ

今大会は、レースウィークを通し天候が不安定で決勝レース2時間前から雨が降り、スタート前にウェット宣言が出された。25号車はDドライバー名取選手、26号車はAドライバー荒選手がスタートを担当。コースはフルウェット状態の中、11:45にスタートが切られると、25号車、26号車共に順調にスタートを切る。しかし、ST-5クラスのクラッシュ車両により、FCYが掲出される。FCY解除のタイミングで25号車は大きくポジションアップに成功しクラストップを走行。その後、後続を走る#34と攻防を繰り返すが前戦のウェイトの関係もあり、順位を守りながらの走行となった。一方26号車はトラブルが発生してしまった影響もあり、他車を引き離すスピードはなかったものの、順調に走行を重ねLap29でAドライバー大塚選手にドライバー交代。Lap31にST-5クラスのクラッシュがあり、再びFCYが導入される。FCYが解除され、Lap33で25号車はピットイン。Aドライバー植松選手にドライバー交代。その後もクラッシュ車両が続出したが、プロドライバーが多く走るセカンドスティントをジェントルマンドライバーたちは懸命に走り切った。25号車は松田選手にドライバー交代をすると、怒涛の追い上げが繰り返される。26号車は序

盤の接触の影響もありトラブルが発生し、緊急ピットイン。メカニックの懸命な作業によりマシン修復を試みる。25号車松田選手の猛追により、4番手までポジションアップ。ライバル#52が最後のピットインをしたところで25号車は3番手へポジションアップ。最終スティントを務める佐藤選手はポジションを守り切り、3位でフィニッシュ。2戦連続の表彰台を獲得した。26号車はトラブルを抱えながらも、懸命にマシン修復を繰り返し行い最後まで走り切り11位で完走した。



■日産メカニックチャレンジ活動

1. ピット活動

2. チームドライバーとの交流会

9/26(木) に日産校学生と日産販売店メカニック(TS)が25号車、26号車のドライバー7人と交流会を行った。「一番印象に残っているレースは?」「レースを運営するにはどれくらいのお金がかかるのか」などドライバー個人に向けた質問も多く上がった。



3. マックメカニクスツールズ特別講習



4. 他チーム見学：HRC

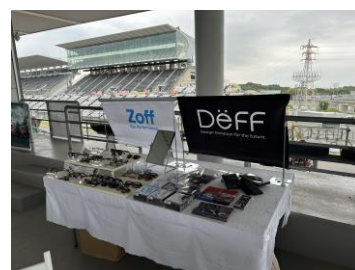
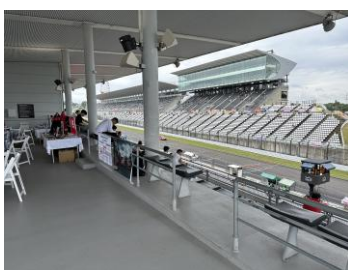
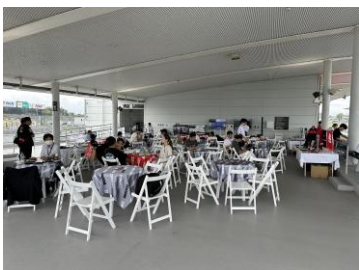


5. ブリヂストンサービスチーム見学

9/26(木) にイベント・モータースポーツ推進課の武田さんに案内頂いた。タイヤ作業の流れを実際に見せて頂き TS も学生も興味を持ってお話を聞いていた。



■ゲストエリア



■次戦へ向けて

今大会も難しいコンディションの中、25号車、26号車共に完走できたことは良かったものの、26号車に関してはトラブルが続いたレースウィークとなってしまった。その中でも25号車は2戦連続表彰台を獲得できチームとしての士気も上がった重要なレースとなった。次戦は岡山戦なので、2台揃って表彰台を目指し取り組みたい。

以上
TEAM ZEROONE